

1

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- 滋賀商店から商品 ¥800,000 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃 ¥24,000 は現金で支払った。
- 現金の実際有高を調べたところ、実際有高が帳簿残高より ¥3,000 多かったので、帳簿残高を修正してその原因を調査することにした。
- 奈良商店から、商品代金として受け取っていた同店振り出しの約束手形 ¥600,000 を取引銀行で割引き、割引料を差し引かれた手取金 ¥596,000 は当座預金とした。
- 内容不明の送金額 ¥270,000 を仮受金勘定で処理していたが、本日、その送金額は、得意先島根商店に対する売掛金の回収額であることがわかった。
- 本月分の給料 ¥700,000 の支払いにあたり、所得税額 ¥56,000 を差し引いて、従業員の手取額を現金で支払った。
- 商品券 ¥90,000 を発行し、代金は現金で受け取った。

2

大阪商店の下記の取引について、

- 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の売掛金勘定に転記しなさい。
- 売上帳・売掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、売掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取引

1月8日 岡山商店から次の商品を仕入れ、代金のうち ¥300,000 は同店あての約束手形#3を振り出して支払い、残額は掛けとした。

A 品	400個	@¥600	¥240,000
B 品	900〃	〃 500	¥450,000

13日 兵庫商店から売掛金の一部 ¥250,000 を現金で受け取った。

20日 京都商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

B 品	200個	@¥700	¥140,000
-----	------	-------	----------

27日 京都商店に売り渡した上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品された。なお、この代金は売掛金から差し引くことにした。

B 品	10個	@¥700	¥7,000
-----	-----	-------	--------

27日 兵庫商店に次の商品を売り渡し、代金の一部については下記の小切手#15で受け取り、残額は掛けとした。

A 品	250個	@¥800	¥200,000
B 品	300〃	〃 700	¥210,000

YF0015

小 切 手

支払地 兵庫県神戸市兵庫区下山町3-16-1

株式会社 全商銀行兵庫支店

金 額

¥180,000

神戸 2801
0149-028

兵庫
車

上記の金額をこの小切手と引き替えに
持参人へお支払いください

兵庫県神戸市垂水区星陵台4-3-1

兵庫商店

平成〇年1月27日

振出地 兵庫県神戸市

振出人 兵庫太郎

兵庫

3

広島商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引

6月23日 売買目的で尾道商事株式会社の株式15株を1株につき¥60,000で買い入れ、代金は小切手#18を振り出して支払った。(伝票番号 No. 67)

〃 日 福山商店から貸付金の利息¥5,000を現金で受け取った。(伝票番号 No. 59)

4

次の各問いに答えなさい。

(1) 次の取引について、先入先出法によってA品の商品有高帳に記入したときの(ア)と(イ)の金額を求めなさい。

取引

6月7日 宇部商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A品 200個 @¥2,100 ¥420,000

10日 下関商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A品 400個 @¥1,600 ¥640,000

B品 500〃 〃 ¥1,700 ¥850,000

商品有高帳

(先入先出法)

平成 〇年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	前月繰越	80	1,400	112,000				80	1,400	112,000
		300	1,500	450,000				300	1,500	450,000
7	宇部商店				80	()	()			
					()	(ア)	()	()	()	()
10	下関商店	()	()	()				180	()	()
								()	()	(イ)

(2) 鳥取商店(個人企業)の下記の資本金勘定と資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 期首の資本金

b. 期間中の費用総額

資 本 金		資 料	
12/31 次期繰越 ()	1/1 前期繰越 ()	期間中の収益総額	¥8,535,000
	12/31 損 益 715,000		
3,715,000	3,715,000		

(3) 次の各文の [] のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

a. 商品に関する取引を3分法で記帳している場合、決算整理後の仕入勘定の残高は [ア] を意味している。

b. 手形に関する明細を記録する補助簿のうち、商品代金の決済などで生じた手形債権の発生・消滅を記入する帳簿を [イ] という。

1. 期末商品棚卸高 2. 受取手形記入帳 3. 純仕入高 4. 売上原価 5. 支払手形記入帳

5

和歌山商店(個人企業 決算年/回 2月3/日)の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

(1) 決算整理仕訳を示しなさい。

(2) 繰越商品勘定と支払家賃勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。

(3) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金 ¥ 730,000	当座預金 ¥1,492,000	売掛金 ¥2,650,000
貸倒引当金 8,000	繰越商品 540,000	前払金 193,000
備品 625,000	支払手形 460,000	買掛金 1,743,000
借入金 900,000	資本金 2,940,000	引出金 180,000
売上 8,487,000	受取手数料 176,000	仕入 6,050,000
給料 1,380,000	支払家賃 480,000	水道光熱費 213,000
消耗品費 96,000	雑費 40,000	支払利息 45,000

決算整理事項

a. 期末商品棚卸高 ¥560,000

b. 貸倒引当金 売掛金残高の2%とする。ただし、差額を計上する方法によること。

c. 備品減価償却高 取得原価 ¥750,000 残存価額は零(0) 耐用年数は6年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

d. 引出金勘定の ¥180,000 は整理する。

1

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

(1)

帳 訳 仕

1

[illegible]

帳 元 定 勘 総

壳 掛 金

4

平 成 年	摘 要	仕 丁	借 方	平 成 年	摘 要	仕 丁	貸 方
/	/	前期繰越	✓ 440,000				

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

帳 上 壳

1

[illegible]

帳元金掛売

兵 庫 商 店

1

[illegible]

京 都 商 店

2

[illegible]

校 場 験 試

受験番号

3 級の 1 得点

3

入金伝票		No.	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要	金額		
合計			

出金伝票		No.	
平成○年 月 日			
科目	支払先	殿	
摘要	金額		
合計			

振替伝票				No.			
平成○年 月 日							
勘定科目	借方	勘定科目	貸方				
合計		合計					
摘要							

4

(1)	ア	イ	(2)	a	b	(3)	ア	イ
	㊦	㊦		㊦	㊦			

5

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		

- (2) (注意) i 支払家賃勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

繰越商品	5	支払家賃	17
1/1 前期繰越	540,000	480,000	

- (3) 貸借対照表

和歌山商店

平成○年/2月3/日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現金		支払手形	
当座預金		買掛金	
売掛金 ()		()	
貸倒引当金 ()		資本金	
()		()	
前払金			
備品			

試験場校	受験番号

3級の2得点

総得点

1

	借 方	貸 方
a	仕 入 824,000	買 掛 金 800,000 現 金 24,000
b	現 金 3,000	現 金 過 不 足 3,000
c	当 座 預 金 596,000 手 形 売 却 損 4,000	受 取 手 形 600,000
d	仮 受 金 270,000	売 掛 金 270,000
e	給 料 700,000	所 得 税 預 り 金 56,000 現 金 644,000
f	現 金 90,000	商 品 券 90,000

2 (1)

仕 訳 帳 1

平成 〇年	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	7,980,000	7,980,000
8	(仕 入) 諸 口		690,000	
	(支払手形)			300,000
	(買 掛 金)			390,000
13	(現 金)		250,000	
	(売 掛 金)	4		250,000
20	(売 掛 金)	4	140,000	
	(売 上)			140,000
21	(売 上)		7,000	
	(売 掛 金)	4		7,000
27	諸 口 (売 上)			410,000
	(現 金)		180,000	
	(売 掛 金)	4	230,000	

総 勘 定 元 帳

売 掛 金 4

平成 〇年	摘 要	仕 丁	借 方	平成 〇年	摘 要	仕 丁	貸 方
/ /	前期繰越	✓	440,000	1 13	現 金	1	250,000
20	売 上	1	140,000	21	売 上	〃	7,000
27	売 上	〃	230,000				

(2) (注意) 売上帳・売掛金元帳は締め切ること。

売 上 帳 1

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額
1 20	京都商店 掛け		
	B 品 200個 @¥700		140,000
21	京都商店 掛け戻り		
	B 品 10個 @¥700		7,000
27	兵庫商店 小切手・掛け		
	A 品 250個 @¥800	200,000	
	B 品 300〃 〃 ¥700	210,000	410,000
31	総売上高		550,000
〃	売上戻り高		7,000
	純売上高		543,000

売 掛 金 元 帳

兵 庫 商 店 1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 また は 貸	残 高
/ /	前月繰越	280,000		借	280,000
13	回 収		250,000	〃	30,000
27	売り上げ	230,000		〃	260,000
31	次月繰越		260,000		
		510,000	510,000		

京 都 商 店 2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 また は 貸	残 高
/ /	前月繰越	160,000		借	160,000
20	売り上げ	140,000		〃	300,000
21	売上戻り		7,000	〃	293,000
31	次月繰越		293,000		
		300,000	300,000		

3

入金伝票					No. 59					
平成〇年 6 月 23 日										
科目	受取利息		入金先	福山商店 殿						
摘 要				金 額						
貸付金の利息の受け取り							5	0	0	0
合 計							5	0	0	0

出 金 伝 票		No. _____					
平成○年 月 日							
科目		支払先	殿				
摘 要		金 額					
合 計							

振替伝票				No. 67
平成○年 6 月 23 日				
勘定科目	借	方	勘定科目	貸
有価証券 (または売買目的有価証券)	9	0 0 0 0 0	当座預金	9
				0 0 0 0 0
合 計	9	0 0 0 0 0	合 計	9
摘要		尾道商事株式会社の株式15株を買い入れ 小切手#18振り出し		

4

(1)	ア	イ	(2)	a	b	(3)	ア	イ
	¥ 1,500	¥ 640,000		¥ 3,000,000	¥ 7,820,000		4	2

5

	借	方	貸	方
a	仕 入	540,000	繰越商品	540,000
	繰越商品	560,000	仕 入	560,000
b	貸倒償却	45,000	貸倒引当金	45,000
c	減価償却費	125,000	備 品	125,000
d	資 本 金	180,000	引 出 金	180,000

- (2) (注意) i 支払家賃勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

繰越商品				5
1/1 前期繰越	540,000	12/31 仕 入	540,000	
12/31 仕 入	560,000	〃 次期繰越	560,000	
	1,100,000		1,100,000	

支払家賃				17
	480,000	12/31 損 益	480,000	

- (3) 和歌山商店 貸借対照表 平成○年/2月3/日

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金	730,000	支 払 手 形	460,000
当 座 預 金	1,492,000	買 掛 金	1,743,000
売 掛 金 (2,650,000)		(借 入 金)	900,000
貸倒引当金 (53,000)	2,597,000	資 本 金	2,760,000
(商 品)	560,000	(当 期 純 利 益)	209,000
前 払 金	193,000		
備 品	500,000		
	6,072,000		6,072,000

(貸倒償却は、貸倒引当金繰入でもよい。)